

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

連合「被災地支援ボランティア活動」第22次に参加して

第22次派遣団は、9月3日に日教組で打ち合わせを行い、翌4日に連合の一員として出発、10日に帰着しました。ボランティア作業は、5日から9日の5日間行いました。

今回は、そのうち3日間作業した陸前高田市米崎町で出会ったSさんの話を報告いたします。

9月6日から8日の3日間、陸前高田市米崎町のSさんから依頼された、田んぼ2面の「がれき」撤去、草刈り、用水路の泥出し等の作業を行いました。

依頼主のSさんは、田んぼに面した高台に、3月11日まで奥さんと二人で暮らしていました。

3月11日の地震が発生した時、外出していたSさんは、急いでご自宅に戻られました。津波が来ると思い、奥さんと一緒にご自宅の裏山へ逃げようと思ったそうです。ところが、奥さんはご自宅にいません。辺りを探したのですが、見つからないまま、大津波が押し寄せてきました。Sさんは、隣のお宅の庭先を通り、ご自宅の裏山へと通じる斜面を上がり、難を逃れたそうです。Sさんの目の前でご自宅も隣のお宅も大津波によって、すべて流されてしまいました。

Sさんの奥さんは、隣のお宅の土間辺りで亡くなっていたそうです。奥さんを助けることができなかったSさんは、次の日から毎日、ご自宅のあった場所に来ては、片付けをしたり、奥さんに話しかけたりしているそうです。「妻を助けることができなかった・・・。」と悔やみながら、現在、仮設住宅に一人で暮らしているとのことでした。

大津波によって、奥さんを亡くし、住むところも奪われました。加えて田んぼの被害もひどく、用水路は、土砂や「がれき」で埋まり水が流れない状態。田んぼは、「がれき」や大きな石がごろごろ転がっていたり、雑草が生えていて、とても田植えなどできない状態です。このような状況・光景に、Sさんは、「もう田植えはできない。」と思ったそうです。また、これから生きていく気力もどこか薄れてしまったというようなことも話していました。

我々連合ボランティアは、用水路から、土砂や「がれき」をすべて取り除き、田んぼ法面の補強も土のう袋を使って行いました。その結果、以前のように水が流れるようになりました。田んぼは、「がれき」や大きな石、カキの貝殻等を撤去し、草刈りもしました。小さな石が残っていたり、塩害もあるためすぐに田植えとはいきませんが、それでも背丈の高い雑草がなくなったことで、虫を見つけやすくなったカモメが、えさを求めて田んぼに降りてくるなど、3日間作業を行った成果が見られました。



このきれいになった用水路や田んぼを見て、Sさんは、「みなさんにここまでやっていただけたら、田植えをしないわけにはいかないですね。来年から、田植えができるように頑張ってみようと思います。」と話してくださいました。そう話しているSさんの顔に笑顔が少し戻ったようにも感じました。

被災地の復興には、まだまだ多くの時間と人手が必要です。今回微力ながらも少しでもお役に立てればと思い、参加しました。ボランティア作業を通して、Sさんという一人の人間が生きる気力を取り戻してくれたことが、言葉では表せないほどうれしいです。機会があれば、これからも被災地支援のボランティアに参加するつもりです。そしていつの日か、復興した陸前高田の町を、Sさんの田んぼを見に訪れたいと思っています。



最後に、私たちの班長・バスの1号車のリーダー・陸前高田隊の隊長として、リードくださった日教組の四傘田修三さん、大変お世話になりました。いつの日か、Sさんの田んぼの稲刈りボランティア作業を計画してください。真っ先に参加します！